

価値観の可視化ツール『オタワ意思決定ガイド』を使ってディシジョン・コーチングを体験してみよう！

○青木 裕見¹⁾、福島 鏡²⁾、宮原 慶江³⁾

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科、2) 聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士後期課程、

3) NTT東日本関東病院

【企画の意図】

本人の価値観を反映しながら今後の方針を一緒に検討する共同意思決定 (shared decision making, SDM) が注目されている。各種精神疾患の治療ガイドラインにおいて、治療方針はSDMで検討することが明記され、また、まもなく公開予定の改訂版うつ病看護ガイドラインでも、SDMが介入技法として組み込まれることとなった。さらに、看護師国家試験の出題基準にも盛り込まれるなど、本人主体のこのアプローチは一層重視されるようになってきている。一方で、実臨床においてSDMの実装は、まだ十分に進んでいるとは言い難い。

SDMの理論的枠組みとして、「オタワ意思決定支援フレームワーク (The Ottawa Decision Support Framework, ODSF)」がある。これは、本人が意思決定に必要な情報を得て、自身の価値観を明確にすることで、納得のいく決定に繋がるとする理論に基づく。ODSFに則って開発された「オタワ意思決定ガイド (O'Connorら 2015; 日本語版 有森ら 2017)」(以下ガイド) は、決定事項と可能な選択肢、各選択肢の長所・短所を書き出し、自身にとっての重要度を可視化できるよう設計されているSDMの支援ツールである。さらに、このガイドを活用した「ディシジョン・コーチング」(以下コーチング) は、いずれの選択肢にも中立的な姿勢で、本人が主体的に検討できるよう導く非指示的な介入であり、価値観の明確化のほか、知識の向上や対話の促進など、多面的な介入効果も明らかになっている。

そこで、本ワークショップでは、この理論とエビデンスに基づく、ガイドを活用したコーチングについて、ロールプレイを通して体験し、本人主体の意思決定について、共に学ぶ時間とする。

【目標】

本ワークショップでは、参加者が以下を達成することを目指す。

1. SDMのプロセスにおいて、相談者に非指示的な姿勢で関わりながら、本人の価値観を一緒に整理する対話を展開できるようになる
2. 自身の実践現場において、コーチングが適用できそうな場面を具体的に述べることができる

【進め方】

本ワークショップは以下の構成で進行する

1. ガイドおよびコーチングについての概説 (30分)
2. ガイドを活用したコーチングのロールプレイ (60分)
 - ・相談者役とコーチ役、観察者の3名一組となり、ロールプレイを実施する
 - ・参加者自身が日常生活で遭遇し得る意思決定を取り上げ、題材とする。自らの価値観を整理するプロセスを体験することで、相手の価値観を尊重した意思決定支援の実践的理解につなげる
 - ・感想や、各自の実践現場での適用について意見交換をするディブリーフィングを挟みながら進める

【倫理的配慮】

参加者に対し、本企画のねらいと進め方を丁寧に説明し、適切なファシリテーションのもと、安心して参加できる環境を提供する。また、ロールプレイ内で共有された参加者の個人情報およびプライバシーの保護に十分配慮して実施する。

なお企画代表者は、ガイドの翻訳者の一人であり、オリジナル版の開発者によるSDM研修を受講し、ガイドを活用したSDM演習を学部教育に導入している。共同企画者らもまた、ガイドを活用した教育実践のある者、あるいはガイドを使ったSDM研修を受講した者で構成されている。

【利益相反】

本ワークショップの開催にあたり、企画者全員に申告すべき利益相反はない。